# 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への木材提供について

高知県木材産業振興課

## １．事業の概要

東京 2020 組織委員会が、国産木材を使用して「選手村ビレッジプラザ」を建築し、大会で使われた木材をレガシーとして各地で活用するプロジェクトへの参加自治体の公募を行い、北海道から九州地方まで６３自治体が事業協力者として参加。各自治体から建築用部材を無償で提供する取り組み。

高知県からは、高知県、香美市、大豊町（以下、高知県連合）の３自治体が共同で参加し、県産材を使用した「ＣＬＴ」を令和元年９月に納材し、施設は令和２年４月に竣工。

高知県連合から納材されたＣＬＴ等は主に床材として使用されている。

大会終了後、選手村ビレッジプラザは解体され、令和４年１月にＣＬＴ等が返却された。

**●高知県連合からの提供木材**

ＣＬＴ等（主に床材として使用）を提供　＊香美市、大豊町が原木を提供、加工以降は高知県

・樹種、材積　：　スギ　約 31m3

## ２．事業スキーム

プロジェクトに参加した自治体は、木材調達、加工、運搬を行い、大会期間中は、木材を組織委員会に無償提供。

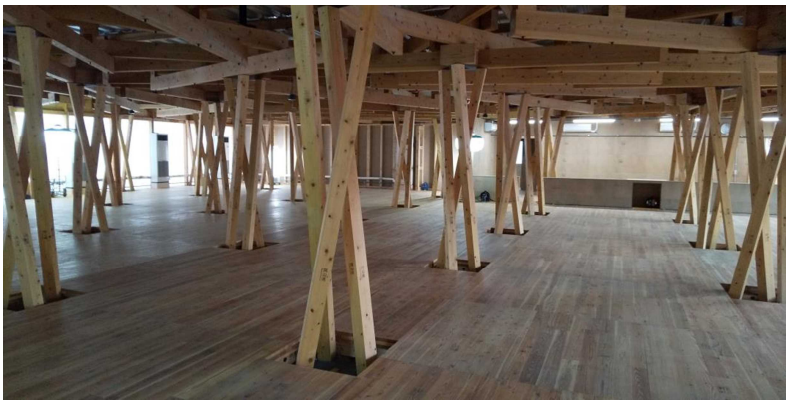
大会終了後、解体した木材を、参加自治体が持ち帰り、大会のレガシーとして再利用。

**⇒高知県では、利活用案を庁内関係部局等で構成するワーキンググループで検討。返却木材を加工してベンチ、パンフレットラック、デジタルサイネージ等の木製品を製作し、県有施設等に設置することに決定。公募型プロポーザル等によりデザインを決定。**

## ３．東選手村ビレッジプラザとは

選手村ビレッジプラザは、大会期間中の選手の生活を支える施設であり、チーム歓迎式典、花屋、雑貨店等の店舗、カフェ、メディアセンター等が配置され、選手のほか、メディア関係者、居住者の関係者等が訪れる施設。

今大会では、宿泊棟が建ち並ぶ選手村地区の東側の玄関口として設置され、後利用のしやすさを考慮した木造の仮設建築物として建設されている。



＊2020 年１月施設公開時の写真